

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-206779

(P2012-206779A)

(43) 公開日 平成24年10月25日(2012. 10. 25)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 85/50 (2006.01)	B 6 5 D 85/50 E	3 E 0 3 5
B 6 5 D 75/38 (2006.01)	B 6 5 D 75/38	3 E 0 6 7
B 6 5 D 65/10 (2006.01)	B 6 5 D 65/10 A	3 E 0 8 6

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 18 頁)

(21) 出願番号	特願2011-91558 (P2011-91558)	(71) 出願人	509210667
(22) 出願日	平成23年3月29日 (2011. 3. 29)	内田 実利	
		宮崎県児湯郡新富町大字新田8089番地8	
		(72) 発明者	内田 実利
		宮崎県児湯郡新富町大字新田8089番地8	
		Fターム(参考)	3E035 AA10 AB10 BA04 BB08 BC02 CA08
			3E067 AA04 AA05 AA12 AB13 AC08
			BA31A BB14A BB24A BC03A CA11
			EA03 EA24 EB03 EB23 EC33
			EE21 EE59 FA02 FC01 GD10
			3E086 AA13 AD18 BB68 CA02

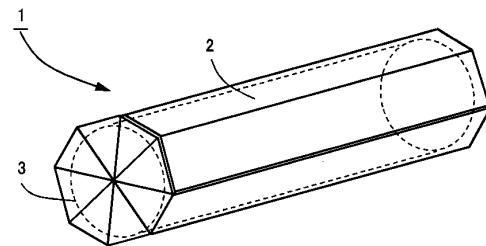
(54) 【発明の名称】 棒状飯用包装箱

(57) 【要約】

【課題】 包装材料が少なく、容易に開封でき、複数段積み重ねても型崩れしにくい棒状飯用包装箱を提供する。

【解決手段】 板状体と二枚の内装シートの上にシート状食品を挟んだ包装シート2を折り曲げ加工して箱体を形成し、前記箱体の内部に棒状飯3を収納した棒状飯用包装箱1において、前記板状体は、分断可能部、掴み片、複数枚の側面蓋片、複数個の長方形面及び複数本の折り線を有し、前記二枚の内装シートは、前記板状体の上で横方向の一方の端部を互いに重ね合わせ、前記板状体と前記二枚の内装シートは、前記二枚の内装シートの外周部で接着している。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一枚の板状体と二枚の内装フィルムの間にシート状食品を挟んだ包装シートを複数回折り曲げて箱体を形成し、該箱体の内部に棒状飯を収納している棒状飯用包装箱において、該板状体は、長手方向の略中央部にて幅方向に沿って分断可能部を有し、長手方向の少なくとも一方の端部に掴み片を有し、幅方向の両端部に複数枚の側面蓋片を有し、該内装フィルムは、内端部を互いに重ね合わせ、該板状体と該内装フィルムは、該内装フィルムの内端部を除いた外周部で接着している、棒状飯用包装箱。

【請求項 2】

前記掴み片は、前記板状体の幅方向に沿って山折りに折り曲げている、請求項 1 に記載の棒状飯用包装箱。

10

【請求項 3】

前記包装シートは、前記板状体の幅方向に沿って複数回谷折りに折り曲げて棒状飯の周囲に巻き、巻き始め側の外面と巻き終わり側の内面を互いに重ね合わせ、巻き終わり側の端部をラベル等で止着し、横断面を多角形状に形成している、請求項 1 又は 2 に記載の棒状飯用包装箱。

【請求項 4】

前記側面蓋片の一部又は全部は、前記板状体の長手方向に沿って谷折りに折り曲げ、隣接する側面蓋片を互いに重ね合わせるにより略固定し、側面を多角形状に形成している、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の棒状飯用包装箱。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、包装材料が少なく、容易に開封でき、複数段積み重ねても型崩れしにくい棒状飯用包装箱に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来の棒状飯用包装シート 21 について、図面に基づいて説明する。図 8 に示すのは、棒状飯用包装シート 21 の分解図である。外装フィルム 7 は、一枚の長方形フィルム片であり、長手方向の略中央部にて幅方向に沿ってカットテープ等で形成し、外装フィルム 7 とラベル（図示せず）を分断する分断可能部 51 を有している。二枚の内装フィルム 81、82 は、二枚の長方形フィルム片であり、内端部を互いに重ね合わせ、外装フィルム 7 と同じ大きさに形成している。補助フィルム 9 は、一枚の長方形フィルム片であり、一方の内装フィルム 81 と互いに重ね合わせ、一方の内装フィルム 81 の幅方向の両端から大きくはみ出たはみ出し部を有している。外装フィルム 7、二枚の内装フィルム 81、82 及び補助フィルム 9 は、外装フィルム 7 と二枚の内装フィルム 81、82 の間に挟んだシート状食品 4 に干渉しないように接着して繋がっている。

30

【0003】

図 9、図 10 に示すように、棒状飯 3 の包装は、補助フィルム 9 の上に棒状飯 3 を載置し、補助フィルム 9 のはみ出し部を棒状飯 3 の側面に被せ、棒状飯用包装シート 21 を棒状飯 3 の周囲に巻き、棒状飯用包装シート 21 の巻き終わり側の端部をラベル（図示せず）で止着している。

40

【0004】

包装した棒状飯 3 の開封は、分断可能部 51 のカットテープを外し、外装フィルム 7 とラベル（図示せず）を分断する。棒状飯用包装シート 21 の巻き終わり側を展開して外側に引っ張ると外装フィルム 7 の略半分と一方の内装フィルム 82 が一緒に引き剥がされ、シート状食品 4 の一部が露出する。補助フィルム 9 を展開し、棒状飯用包装シート 21 の巻き始め側を展開して棒状飯 3 を転がす等により露出したシート状食品 4 の上に移動し、露出したシート状食品 4 を棒状飯 3 の周囲に巻く。外装フィルム 7 の略半分と一方の内装フィルム 81 の間から残りのシート状食品 4 を引き出し、引き出したシート状食品 4 を既

50

に棒状飯 3 に巻いているシート状食品 4 の上に巻き、棒状飯 3 を食べることができる。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

従来の棒状飯用包装シート 21 は、包装材料が多いため棒状飯 3 を食べた後に出るゴミの量が多く、多くの開封作業を要するため包装した棒状飯 3 の開封が面倒であり、柔らかい外装フィルム 7、二枚の内装フィルム 81、82 及び補助フィルム 9 で形成しているため、包装した棒状飯 3 を複数段積み重ねると包装した棒状飯 3 が型崩れし易いという問題があった。

【0006】

本発明は、上記問題を解決できる棒状飯用包装箱を明らかにするものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の棒状飯用包装箱は、一枚の板状体と二枚の内装フィルムの間にシート状食品を挟んだ包装シートを複数回折り曲げて箱体を形成し、該箱体の内部に棒状飯を収納している棒状飯用包装箱において、該板状体は、長手方向の略中央部に幅方向に沿って分断可能部を有し、長手方向の少なくとも一方の端部に掴み片を有し、幅方向の両端部に複数枚の側面蓋片を有し、該内装フィルムは、内端部を互いに重ね合わせ、該板状体と該内装フィルムは、該内装フィルムの内端部を除いた外周部で接着している。

【0008】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記掴み片は、前記板状体の幅方向に沿って山折りに折り曲げている。

【0009】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記包装シートは、前記板状体の幅方向に沿って複数回谷折りに折り曲げて棒状飯の周囲に巻き、巻き始め側の外面と巻き終わり側の内面を互いに重ね合わせ、巻き終わり側の端部をラベル等で止着し、横断面を多角形状に形成している。

【0010】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記側面蓋片の一部又は全部は、前記板状体の長手方向に沿って谷折りに折り曲げ、隣接する側面蓋片を互いに重ね合わせることに

【発明の効果】

【0011】

本発明の棒状飯用包装箱は、従来の棒状飯用包装シートで使用している補助フィルムと分断可能部のカットテープをなくし、一枚の板状体、二枚の内装フィルム及びラベル等により箱体を形成している。これにより、本発明の棒状飯用包装箱は、従来の棒状飯用包装シートに比べ、包装材料が少ないため棒状飯を食べた後に出るゴミの量を減らすことができ、開封作業が省けるため容易に開封でき、箱体を形成しているため複数段積み重ねても型崩れしにくくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】 本発明の棒状飯用包装箱の一実施態様を示す斜視図

【図 2】 包装シートを示す分解斜視図

【図 3】 図 1 に示す棒状飯用包装箱を展開した状態の包装シートを示す正面図

【図 4】 一方の内装フィルムの上に棒状飯を載置した状態を示す斜視図

【図 5】 棒状飯用包装箱を形成する途中の状態を示す斜視図

【図 6】 包装シートの巻き終わり側を外側に引っ張っている状態を示す断面図

【図 7】 包装シートの巻き始め側を外側に引っ張っている状態を示す断面図

【図 8】 棒状飯用包装シートを示す分解斜視図

【図 9】 補助フィルムの上に棒状飯を載置した状態を示す斜視図

10

20

30

40

50

【図 10】包装した棒状飯の開封の状態を示す断面図

【発明を実施するための形態】

【0013】

この発明の実施形態について図面に基づいて説明する。図 1 は、本発明の棒状飯用包装箱の一実施態様を示す図であり、棒状飯用包装箱 1 を形成した状態を示す図である。図 2 は、包装シート 2 を示す分解図である。図 3 は、図 1 に示す棒状飯用包装箱 1 を展開した状態の包装シート 2 を示す図であり、包装シート 2 を裏側（棒状飯用包装箱 1 の内側）から見た図である。

【0014】

図 1 に示すように、棒状飯用包装箱 1 は、包装シート 2 を複数回折り曲げて箱体を形成し、箱体の内部に棒状飯 3 を収納している。棒状飯用包装箱 1 は、実施例では八角柱体であり、高さが約 42 mm、長さが約 110 mm、側面の一边の長さが約 17 mm である。棒状飯 3 は、実施例では円柱体であり、直径が約 40 mm、長さが約 100 mm である。

【0015】

図 2 に示すように、包装シート 2 は、一枚の板状体 5 と二枚の内装フィルム 81、82 の間にシート状食品 4 を挟んで形成している。シート状食品 4 は、実施例ではシート状海苔（以下、単に「海苔」とする）であり、長さが約 170 mm、幅が約 100 mm である。一枚の板状体 5 は、実施例では長さが約 220 mm、幅が約 192 mm である。二枚の内装フィルム 81、82 のそれぞれは、実施例では長さが約 110 mm の正方形フィルム片である。

【0016】

図 3 に示すように、一枚の板状体 5 は、長手方向の略中央部にて幅方向に沿って分断可能部 51 を有し、幅方向に沿って延びる折り線 6A～6K（図 3、図 4 において、鎖線で表示）と長手方向に沿って延びる折り線 6L、6M（図 3、図 4 において、鎖線で表示）を有している。一枚の板状体 5 は、分断可能部 51 と折り線 6A～6M によって、互いに隣接した長方形面 5A～5L、掴み片 500 及び側面蓋片 501～516 に分割され、長方形面 5A に掴み片 500 が隣接し、長方形面 5C～5J に側面蓋片 501～508 と側面蓋片 509～516 が隣接している。一枚の板状体 5 は、端部の輪郭が丸みを帯びた曲線で形成しても良い。又、一枚の板状体 5 は、長方形面 5A、5B の一方又は両方に隣接し、棒状飯用包装箱 1 を形成した時に棒状飯 3 の側面の略中心部を被う側面蓋片を設けて

【0017】

一枚の板状体 5 の材質は、折り曲げ可能であり、フィルムと接着可能であり、包装箱として使用可能なものであれば何でも良い。例えば、クラフト紙、合成紙、プラスチックシート等が挙げられる。一枚の板状体 5 は、棒状飯用包装箱 1 の内部に収納している棒状飯 3 の側面が視認可能な透明のもの、厚みが 0.2 mm～0.5 mm 程度のものが好ましい。

【0018】

分断可能部 51 は、実施例では断続的な切り込みを施して形成している。

【0019】

側面蓋片 501～516 のそれぞれは、実施例では等脚台形であり、高さが約 16 mm、上底の長さが約 31 mm、下底の長さが約 44 mm、内角が約 67.5° と約 112.5° である。側面蓋片 501～516 は、端部の輪郭が丸みを帯びた曲線で形成しても良い。

【0020】

二枚の内装フィルム 81、82 は、実施例では長さが約 110 mm、幅が約 16 mm で内端部を互いに重ね合わせている。

【0021】

一枚の板状体 5 と二枚の内装フィルム 81、82 は、二枚の内装フィルム 81、82 の内端部を除いた外周部で、海苔 41 に干渉しないように接着している。

【0022】

図4、図5に示すように、棒状飯用包装箱1の形成は、折り線6Aに沿って掴み片500を山折りに折り曲げ、一方の内装フィルム81の上に棒状飯3を載置する。

【0023】

次いで、折り線6B～6F、分断可能部51及び折り線6G～6Kに沿って包装シート2を谷折りに折り曲げて棒状飯3の周囲に巻く。折り線6Lに沿って側面蓋片501～508のそれぞれを谷折りに折り曲げて順次上へ上へと重ね合わせ、側面蓋片506～508のそれぞれの一部を側面蓋片501の下へ挿入する。折り線6Mに沿って側面蓋片509～516のそれぞれを谷折りに折り曲げて順次上へ上へと重ね合わせ、側面蓋片514～516のそれぞれの一部を側面蓋片509の下へ挿入する。包装シート2の巻き始め側の外面と包装シート2の巻き終わり側の内面を互いに重ね合わせ、包装シート2の巻き終わり側の端部をラベル（図示せず）等で止着する。

10

【0024】

これにより包装シート2は、横断面を多角形状に形成し、側面蓋片501～508と側面蓋片509～516は、それぞれ略固定して側面を多角形状に形成し、図1に示す棒状飯用包装箱1を形成する。

【0025】

図6、図7に示すように、棒状飯用包装箱1の開封は、棒状飯用包装箱1を手に持ち、一方の手でラベル（図示せず）等を剥がし、包装シート2の巻き終わり側を展開して外側に引っ張る、折り曲げる等により分断可能部51を分断し、包装シート2の巻き終わり側を外側に引っ張ると一枚の板状体5の略半分と一方の内装フィルム82と一緒に引き剥がされ、海苔41の一部が露出する。

20

【0026】

次いで、棒状飯用包装箱1を持つ手を替え、棒状飯用包装箱1を手に持ち、一方の手で掴み片500を掴み、包装シート2の巻き始め側を展開して外側に引っ張ると露出した海苔41が棒状飯3の周囲に巻かれ、一枚の板状体5の略半分と一方の内装フィルム81と一緒に引き剥がされ、残りの海苔41が露出する。露出した海苔41を既に棒状飯3に巻かれている海苔41の上に巻き、棒状飯3を食べることができる。

【0027】

上記説明は、本発明を説明するためのものであって、特許請求の範囲に記載の発明に限定し、或いは範囲を減縮するように解すべきでない。又、本発明の各部構成は、上記実施例に限らず、特許請求の範囲に記載の技術的範囲内で種々の変形が可能であることは勿論である。

30

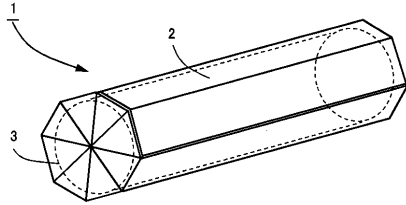
【符号の説明】

【0028】

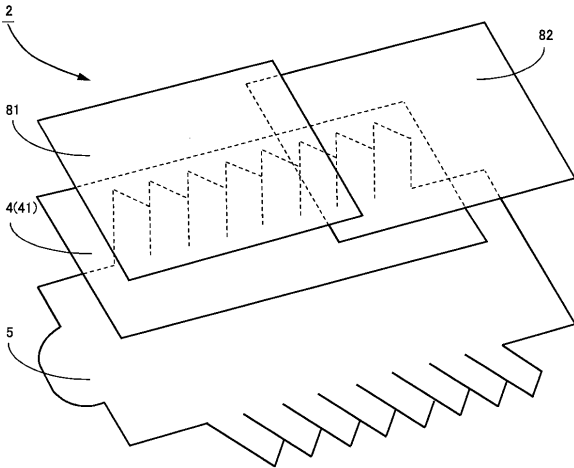
- 1 棒状飯用包装箱
- 2 包装シート
- 21 棒状飯用包装シート
- 3 棒状飯
- 4 シート状食品
- 5 板状体
- 51 分断可能部
- 500 掴み片
- 501～516 側面蓋片
- 5A～5L 長方形面
- 6A～6M 折り線
- 7 外装フィルム
- 81、82 内装フィルム
- 9 補助フィルム

40

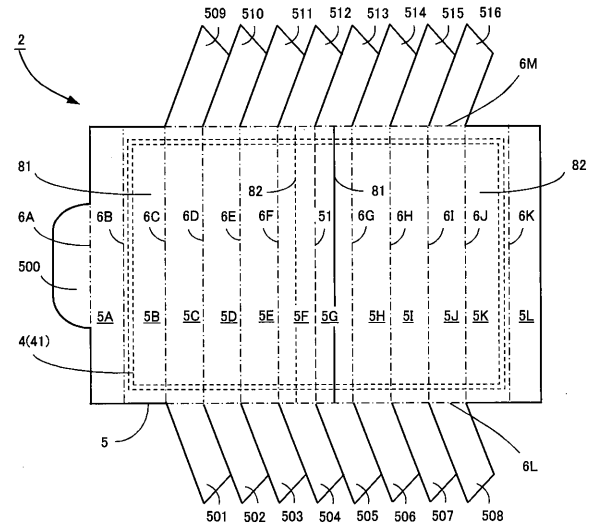
【図 1】



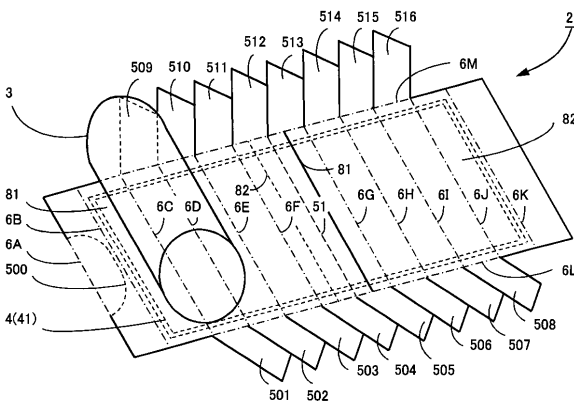
【図 2】



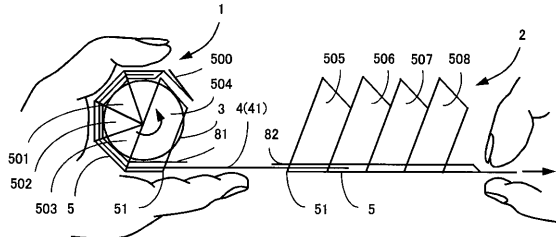
【図 3】



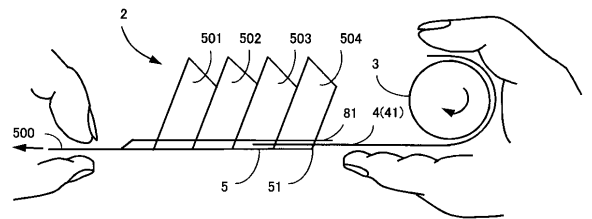
【図 4】



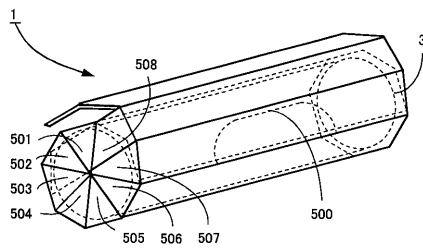
【図 6】



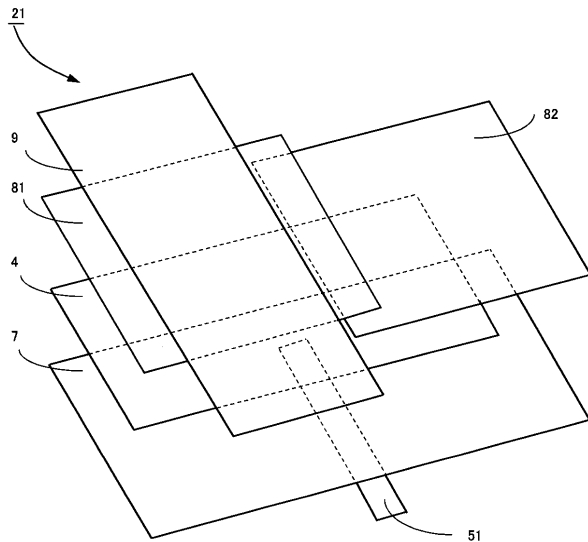
【図 7】



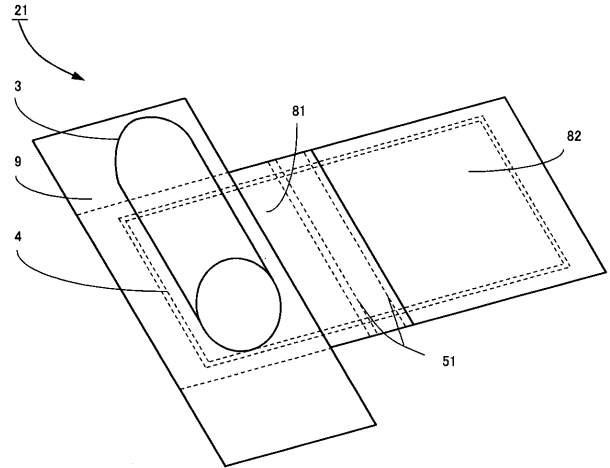
【図 5】



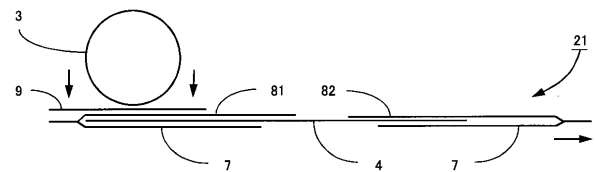
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【手続補正書】

【提出日】平成23年4月26日(2011.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

従来の棒状飯用包装シート 21 は、包装材料が多いため棒状飯 3 を食べた後に出るゴミの量が多く、多くの開封作業を要するため包装した棒状飯 3 の開封が面倒であり、柔らかい外装フィルム 7、二枚の内装フィルム 81、82 及び補助フィルム 9 等で形成しているため、包装した棒状飯 3 を複数段積み重ねると包装した棒状飯 3 が型崩れし易いという問題があった。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の棒状飯用包装箱は、従来の棒状飯用包装シートで使用している補助フィルムをなくし、一枚の板状体、二枚の内装フィルム及びラベル等により箱体を形成している。これにより、本発明の棒状飯用包装箱は、従来の棒状飯用包装シートに比べ、包装材料が少ないため棒状飯を食べた後に出るゴミの量を減らすことができ、開封作業が省けるため容易に開封でき、箱体を形成しているため複数段積み重ねても型崩れしにくくすることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

図3に示すように、一枚の板状体5は、長手方向の略中央部にて幅方向に沿って分断可能部51を有し、幅方向に沿って延びる折り線6A～6K（図3、図4において、鎖線で表示）と長手方向に沿って延びる折り線6L、6M（図3、図4において、鎖線で表示）を有している。一枚の板状体5は、分断可能部51と折り線6A～6Mによって、長方形面5A～5L、掴み片500及び側面蓋片501～516に分割され、折り線6Aを介して長方形面5Aと掴み片500が接続し、折り線6B～6F、分断可能部51及び折り線6G～6Kを介して長方形面5A～5Lが互いに接続し、折り線6Lを介して長方形面5C～5Jと側面蓋片501～508が接続し、折り線6Mを介して長方形面5C～5Jと側面蓋片509～516が接続している。一枚の板状体5は、端部の輪郭が丸みを帯びた曲線で形成しても良い。又、一枚の板状体5は、長方形面5A、5Bの一方又は両方に折り線を介して接続し、棒状飯包装箱1を形成した時に棒状飯3の側面の略中央部を被う側面蓋片を設けても良い。

【手続補正書】

【提出日】平成23年8月19日(2011.8.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2】

前記掴み片の少なくとも一つは、前記板状体の幅方向に沿って山折りに折り曲げている、請求項1に記載の棒状飯用包装箱。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記掴み片の少なくとも一つは、前記板状体の幅方向に沿って山折りに折り曲げている。

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月21日(2012.3.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

板状体と二枚の内装シートの間にシート状食品を挟んだ包装シートを複数回折り曲げて箱体を形成し、前記箱体の内部に棒状飯を収納した棒状飯用包装箱において、前記板状体は、横方向の略中央部で縦方向に沿って分断可能部を有し、横方向の少なくとも一方の端部に掴み片を有し、縦方向の両端部に複数枚の側面蓋片を有し、前記二枚の内装シートは、前記板状体の上で横方向の一方の端部を前記板状体の分断可能部に沿って互いに重ね合わせ、前記板状体と前記二枚の内装シートは、前記二枚の内装シートの外周部で前記シート

状食品に干渉しないように接着した、棒状飯用包装箱。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2】

前記掴み片の少なくとも一つは、前記板状体の縦方向に沿って外側に折り曲げた、請求項 1 に記載の棒状飯用包装箱。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3】

前記包装シートは、縦方向に沿って複数回内側に折り曲げ、前記二枚の内装シートの上で前記板状体の分断可能部に沿って載置した棒状飯の周囲に巻き、巻き終わり側の端部をラベル等で止着した、請求項 1 又は 2 に記載の棒状飯用包装箱。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

前記側面蓋片の一部又は全部は、前記板状体の横方向に沿って内側に折り曲げ、左右に隣接する側面蓋片の間に挟まれ、左右に隣接する側面蓋片と互いに重ね合わせ、前記箱体の胴部の両端部を支持し、前記箱体の側面を隙間なく形成した、請求項 1～3 のいずれかに記載の棒状飯用包装箱。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

コンビニエンスストア等で販売している従来の棒状飯用包装シート 21 について、図面に基づいて説明する。図 8 に示すのは、棒状飯用包装シート 21 の分解図である。外装シート 7 は、長方形フィルム片であり、横方向の略中央部で縦方向に沿ってカットテープ等で形成し、外装シート 7 とラベル（図示せず）を分断する分断可能部 51 を有している。二枚の内装シート 81、82 は、それぞれ長方形フィルム片であり、横方向の一方の端部を外装シート 7 の分断可能部 51 に沿って互いに重ね合わせ、外装シート 7 と同じ大きさに形成している。補助シート 9 は、長方形フィルム片であり、一方の内装シート 81 と互いに重ね合わせ、一方の内装シート 81 の縦方向の両端から大きくはみ出たはみ出し部を有している。外装シート 7、二枚の内装シート 81、82 及び補助シート 9 は、外装シート 7 と二枚の内装シート 81、82 の間に挟んだシート状食品 4 に干渉しないように接着して繋がっている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００３】

図９、図１０に示すように、棒状飯３の包装は、補助シート９の上に棒状飯３を載置し、補助シート９のはみ出し部を棒状飯３の側面に被せ、棒状飯用包装シート２１を棒状飯３の周囲に巻き、棒状飯用包装シート２１の巻き終わり側の端部をラベル（図示せず）で止着している。

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００４】

包装した棒状飯３の開封は、分断可能部５１のカットテープを外し、外装シート７とラベル（図示せず）を分断する。棒状飯用包装シート２１の巻き終わり側を展開して外側に引っ張ると外装シート７の略半分と他方の内装シート８２が一緒に引き剥がされ、シート状食品４の一部が露出する。補助シート９を展開し、棒状飯用包装シート２１の巻き始め側を展開して棒状飯３を転がす等により露出したシート状食品４の上に移動し、露出したシート状食品４を棒状飯３の周囲に巻く。残りの外装シート７と一方の内装シート８１の間から残りのシート状食品４を引き出し、引き出したシート状食品４を既に棒状飯３に巻いているシート状食品４の上に巻き、棒状飯３を食べることができる。

【手続補正８】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００５】

コンビニエンスストア等で販売している従来の棒状飯用包装シート２１は、包装材料が多いため棒状飯３を食べた後に出るゴミの量が多く、開封作業が多いため包装した棒状飯３の開封が面倒であり、柔らかい、外装シート７、二枚の内装シート８１、８２及び補助シート９等で形成しているため、包装した棒状飯３を複数段積み重ねると包装した棒状飯３が型崩れし易いという問題があった。

【手続補正９】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

本発明の棒状飯用包装箱は、板状体と二枚の内装シートの間にシート状食品を挟んだ包装シートを複数回折り曲げて箱体を形成し、前記箱体の内部に棒状飯を収納した棒状飯用包装箱において、前記板状体は、横方向の略中央部で縦方向に沿って分断可能部を有し、横方向の少なくとも一方の端部に掴み片を有し、縦方向の両端部に複数枚の側面蓋片を有し、前記二枚の内装シートは、前記板状体の上で横方向の一方の端部を前記板状体の分断可能部に沿って互いに重ね合わせ、前記板状体と前記二枚の内装シートは、前記二枚の内装シートの外周部で前記シート状食品に干渉しないように接着している。

【手続補正１０】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記掴み片の少なくとも一つは、前記板状

体の縦方向に沿って外側に折り曲げている。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記包装シートは、縦方向に沿って複数回内側に折り曲げ、前記二枚の内装シートの上で前記板状体の分断可能部に沿って載置した棒状飯の周囲に巻き、巻き終わり側の端部をラベル等で止着している。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記側面蓋片の一部又は全部は、前記板状体の横方向に沿って内側に折り曲げ、左右に隣接する側面蓋片の間に挟まれ、左右に隣接する側面蓋片と互いに重ね合わせ、前記箱体の胴部の両端部を支持し、前記箱体の側面を隙間なく形成している。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の棒状飯用包装箱は、コンビニエンスストア等で販売している従来の棒状飯用包装シートで使用している補助シートをなくし、板状体、二枚の内装シート及びラベル等により箱体を形成している。これにより、本発明の棒状飯用包装箱は、従来の棒状飯用包装シートに比べ、包装材料が少ないため棒状飯を食べた後に出るゴミの量を減らすことができ、開封作業が少ないため容易に開封でき、箱体を形成しているため複数段積み重ねても型崩れしにくくすることができる。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

【図 1】本発明の棒状飯用包装箱の一実施態様を示す斜視図

【図 2】包装シートを示す分解斜視図

【図 3】図 1 に示す棒状飯用包装箱を展開した状態の包装シートを示す正面図

【図 4】一方の内装シートの上に棒状飯を載置した状態を示す斜視図

【図 5】棒状飯用包装箱を形成する途中の状態を示す斜視図

【図 6】包装シートの巻き終わり側を外側に引っ張っている状態を示す断面図

【図 7】包装シートの巻き始め側を外側に引っ張っている状態を示す断面図

【図 8】従来の棒状飯用包装シートを示す分解斜視図

【図 9】補助シートの上に棒状飯を載置した状態を示す斜視図

【図 10】包装した棒状飯の開封の状態を示す断面図

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

図 2 に示すように、包装シート 2 は、板状体 5 と二枚の内装シート 8 1、8 2 の間にシート状食品 4 を挟んでいる。シート状食品 4 は、実施例ではシート状海苔 4 1（以下、単に「海苔」とする）であり、横方向の長さが約 1 7 0 mm、縦方向の長さが約 1 0 0 mmである。板状体 5 は、実施例では横方向の長さが約 2 2 0 mm、縦方向の長さが約 1 9 2 mmである。二枚の内装シート 8 1、8 2 は、実施例ではそれぞれ、横方向と縦方向の長さが約 1 1 0 mm の正方形である。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

図 3 に示すように、板状体 5 は、横方向の略中央部で縦方向に沿って分断可能部 5 1 を有し、縦方向に沿って延びる折り線 6 A～6 K（図 3、図 4 において、鎖線で表示）と横方向に沿って延びる折り線 6 L、6 M（図 3、図 4 において、鎖線で表示）を有している。板状体 5 は、分断可能部 5 1 と折り線 6 A～6 M によって、箱体の胴部を形成する長方形面 5 A～5 L、掴み片 5 0 0 及び箱体の側面を形成する側面蓋片 5 0 1～5 1 6 に分割され、折り線 6 A を介して長方形面 5 A と掴み片 5 0 0 が接続し、折り線 6 B～6 F、分断可能部 5 1 及び折り線 6 G～6 K を介して長方形面 5 A～5 L が互いに接続し、折り線 6 L を介して長方形面 5 C～5 J と側面蓋片 5 0 1～5 0 8 が接続し、折り線 6 M を介して長方形面 5 C～5 J と側面蓋片 5 0 9～5 1 6 が接続している。板状体 5 は、端部の輪郭が丸みを帯びた曲線で形成しても良い。又、板状体 5 は、長方形面 5 A、5 B の一方又は両方に折り線を介して接続し、棒状飯包装箱 1 を形成した時に棒状飯 3 の側面の略中央部を被う側面蓋片を設けても良い。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

板状体 5 の材質は、折り曲げ可能であり、フィルム、紙等と接着可能であり、包装箱として使用可能なものであれば何でも良い。例えば、クラフト紙、合成紙、プラスチックシート等が挙げられる。板状体 5 の厚さは、0. 2 mm～0. 5 mm 程度のものが好ましい。

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

分断可能部 5 1 は、実施例では断続的な切り込みを施して形成している。掴み片 5 0 0 は、実施例では横方向の長さが約 1 6 mm、縦方向の長さが約 5 0 mmである。長方形面 5 A～5 L は、実施例ではそれぞれ、横方向の長さが約 1 7 mm、縦方向の長さが約 1 1 0 mmである。

【手続補正 1 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

側面蓋片501～516は、実施例ではそれぞれ等脚台形であり、高さが約16mm、上底の長さが約31mm、下底の長さが約44mm、斜辺の長さが約17mm、内角が67.5°と112.5°である。側面蓋片501～516は、端部の輪郭が丸みを帯びた曲線で形成しても良い。

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

二枚の内装シート81、82は、実施例では板状体5の上で横方向の長さが約16mm、縦方向の長さが約110mmで横方向の一方の端部を板状体5の分断可能部51に沿って互いに重ね合わせている。二枚の内装シート81、82の材質は、両面に均一に凹凸が施された、エンボスフィルム、エンボス紙等が良い。

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

板状体5と二枚の内装シート81、82は、二枚の内装シート81、82の外周部で海苔41に干渉しないように接着している。二枚の内装シート81、82の横方向の一方の端部の互いの重ね合わせ部は、板状体5と接着していない。

【手続補正22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

図4、図5に示すように、棒状飯用包装箱1の形成は、折り線6Aに沿って掴み片500を外側に折り曲げる。棒状飯3は、実施例では一方の内装シート81の上で板状体5の分断可能部51に沿って載置している。

【手続補正23】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

次いで、折り線6B～6F、分断可能部51及び折り線6G～6Kに沿って包装シート2を内側に折り曲げて棒状飯3の周囲に巻く。折り線6Lに沿って側面蓋片501～508をそれぞれ内側に折り曲げ、側面蓋片501の上に側面蓋片502、側面蓋片502の上に側面蓋片503と順次上へ上へと重ね合わせ、側面蓋片506～508のそれぞれの一部を側面蓋片501の下へ挿入する。同様に折り線6Mに沿って側面蓋片509～516をそれぞれ内側に折り曲げ、側面蓋片509の上に側面蓋片510、側面蓋片510の上に側面蓋片511と順次上へ上へと重ね合わせ、側面蓋片514～516のそれぞれの一部を側面蓋片509の下へ挿入する。包装シート2の巻き始め側の外面と包装シート2の巻き終わり側の内面を互いに重ね合わせ、包装シート2の巻き終わり側の端部をラベル

(図示せず)等で止着する。ラベル(図示せず)等は、包装シート2から容易に剥離できる。

【手続補正24】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

これにより側面蓋片501～508と側面蓋片509～516は、それぞれ一方の斜辺部が長方形面5A～5Hの内面に接して、箱体の胴部の両端部を支持し、それぞれ下底部の一部が箱体の側面の略中央で接して、箱体の側面を隙間なく形成し、図1に示す棒状飯用包装箱1を形成する。

【手続補正25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

図6、図7に示すように、棒状飯用包装箱1の開封は、棒状飯用包装箱1を手に持ち、一方の手でラベル(図示せず)等を剥がして包装シート2の巻き終わり側を展開すると、側面蓋片506～508のそれぞれの一部が側面蓋片501の下から引き抜けるとともに、側面蓋片514～516のそれぞれの一部が側面蓋片509の下から引き抜ける。一方の手で包装シート2の巻き終わり側を外側に引っ張る、折り曲げる等により分断可能部51を分断して包装シート2の巻き終わり側を外側に引っ張りながら、他方の手に持った棒状飯用包装箱1を包装シート2の巻き終わり側の引っ張りに合わせて回転させると、板状体5の略半分と他方の内装シート82と一緒に引き剥がされ、海苔41の一部が露出する。

【手続補正26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

次いで、残りの棒状飯用包装箱1を一方の手に持ち替え、他方の手で掴み片500を掴んで包装シート2の巻き始め側を展開しながら外側に引っ張り、一方の手に持った残りの棒状飯用包装箱1を包装シート2の巻き始め側の引っ張りに合わせて回転させると、露出した海苔41を棒状飯3の周囲に巻くことができ、残りの板状体5と一方の内装シート81と一緒に引き剥がされ、残りの海苔41が露出する。露出した海苔41を既に棒状飯3に巻いている海苔41の上に巻き、棒状飯3を食べることができる。

【手続補正27】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

- 1 棒状飯用包装箱
- 2 包装シート
- 21 従来の棒状飯用包装シート
- 3 棒状飯
- 4 シート状食品

4 1 シート状海苔

5 板状体

5 1 分断可能部

5 0 0 掴み片

5 0 1 ~ 5 1 6 側面蓋片

5 A ~ 5 L 長方形面

6 A ~ 6 M 折り線

7 外装シート8 1、8 2 内装シート9 補助シート

【手続補正書】

【提出日】平成24年6月26日(2012.6.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

板状体と二枚の内装シートの間にシート状食品を挟んだ包装シートを折り曲げ加工して箱体を形成し、前記箱体の内部に棒状飯を収納した棒状飯用包装箱において、前記板状体は、横方向の略中央部に分断可能部を有し、前記分断可能部と縦方向に互いに平行に延びる複数本の折り線又は縦方向に互いに平行に延びる多数本の折り線を介して、互いに接続した複数個の長方形面を有し、縦方向に延びる折り線を介して、前記複数個の長方形面の横方向の少なくとも一方の端部の長方形面に接続した掴み片を有し、横方向に延びる複数本の折り線を介して、前記複数個の長方形面の縦方向の両端の一部に接続した複数枚の側面蓋片を有し、前記二枚の内装シートは、前記板状体の上で横方向の一方の端部を互いに重ね合わせ、前記板状体と前記二枚の内装シートは、前記二枚の内装シートの外周部で前記シート状食品に干渉しないように接着した、棒状飯用包装箱。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項2】

前記掴み片の少なくとも一つは、前記縦方向に延びる折り線に沿って外側に折り曲げた、請求項1に記載の棒状飯用包装箱。

【手続補正3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項3】

前記包装シートは、前記分断可能部と前記縦方向に互いに平行に延びる複数本の折り線又は前記縦方向に互いに平行に延びる多数本の折り線に沿って内側に折り曲げ、前記二枚の内装シートの上で前記板状体の縦方向に沿って載置した棒状飯の周囲に巻き、巻き終わり側の端部をラベル等で止着した、請求項1又は2に記載の棒状飯用包装箱。

【手続補正4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

前記複数枚の側面蓋片の一部又は全部は、前記横方向に延びる複数本の折り線に沿って内側に折り曲げ、左右に隣接する側面蓋片の間に挟まるように互いに重ね合わせ、一側辺が前記箱体の両側面の中央で交差し、前記箱体の胴部の両端部を支持し、前記箱体の両側面を形成した、請求項 1～3 のいずれかに記載の棒状飯用包装箱。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

コンビニエンスストア等で販売している従来の棒状飯用包装シート 21 について、図面に基づいて説明する。図 8 に示すのは、棒状飯用包装シート 21 の分解図である。外装シート 7 は、長方形フィルム片であり、横方向の略中央部に縦方向に延びるカットテープ等で形成した分断可能部 51 を有している。二枚の内装シート 81、82 は、それぞれ長方形フィルム片であり、横方向の一方の端部を外装シート 7 の分断可能部 51 に沿って互いに重ね合わせ、外装シート 7 と同じ大きさに形成している。補助シート 9 は、長方形フィルム片であり、一方の内装シート 81 の上に重ね合わせ、一方の内装シート 81 の縦方向の両端から大きくはみ出たはみ出し部を有している。外装シート 7、二枚の内装シート 81、82 及び補助シート 9 は、外装シート 7 と二枚の内装シート 81、82 の間に挟んだシート状食品 4 に干渉しないように接着して繋がっている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の棒状飯用包装箱は、板状体と二枚の内装シートの間にシート状食品を挟んだ包装シートを折り曲げ加工して箱体を形成し、前記箱体の内部に棒状飯を収納した棒状飯用包装箱において、前記板状体は、横方向の略中央部に分断可能部を有し、前記分断可能部と縦方向に互いに平行に延びる複数本の折り線又は縦方向に互いに平行に延びる多数本の折り線を介して、互いに接続した複数個の長方形面を有し、縦方向に延びる折り線を介して、前記複数個の長方形面の横方向の少なくとも一方の端部の長方形面に接続した掴み片を有し、横方向に延びる複数本の折り線を介して、前記複数個の長方形面の縦方向の両端の一部に接続した複数枚の側面蓋片を有し、前記二枚の内装シートは、前記板状体の上で横方向の一方の端部を互いに重ね合わせ、前記板状体と前記二枚の内装シートは、前記二枚の内装シートの外周部で前記シート状食品に干渉しないように接着している。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記掴み片の少なくとも一つは、前記縦方向に延びる折り線に沿って外側に折り曲げている。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記包装シートは、前記分断可能部と前記縦方向に互いに平行に延びる複数本の折り線又は前記縦方向に互いに平行に延びる多数本の折り線に沿って内側に折り曲げ、前記二枚の内装シートの上で前記板状体の縦方向に沿って載置した棒状飯の周囲に巻き、巻き終わり側の端部をラベル等で止着している。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

又、前記本発明の棒状飯用包装箱において、前記複数枚の側面蓋片の一部又は全部は、前記横方向に延びる複数本の折り線に沿って内側に折り曲げ、左右に隣接する側面蓋片の間に挟まるように互いに重ね合わせ、一側辺が前記箱体の両側面の中央で交差し、前記箱体の胴部の両端部を支持し、前記箱体の両側面を形成している。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

図1に示すように、棒状飯用包装箱1は、包装シート2を折り曲げ加工して箱体を形成し、箱体の内部に棒状飯3を収納している。棒状飯用包装箱1は、実施例では八角柱体であり、高さが約42mm、長さが約110mm、側面の一辺の長さが約17mmである。棒状飯3は、実施例では円柱体であり、直径が約40mm、長さが約100mmである。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

図3に示すように、板状体5は、横方向の略中央部に、縦方向に延びる分断可能部51を有し、縦方向に延びる折り線6A、縦方向に互いに平行に延びる折り線6B～6K及び横方向に延びる折り線6L、6M（図3、図4において、鎖線で表示）を有している。板状体5は、長方形面5A～5L、掴み片500及び側面蓋片501～516を有し、折り線6Aを介して、長方形面5Aに掴み片500が接続し、折り線6B～6F、分断可能部51及び折り線6G～6Kを介して、長方形面5A～5Lが互いに接続し、折り線6Lを介して、長方形面5C～5Jに側面蓋片501～508が接続し、折り線6Mを介して、長方形面5C～5Jに側面蓋片509～516が接続している。板状体5は、端部の輪郭が丸みを帯びた曲線で形成しても良い。又、板状体5は、長方形面5A、5Bの一方又は両方に折り線を介して接続し、棒状飯包装箱1を形成した時に棒状飯3の側面の略中央部を被う側面蓋片を設けても良い。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

分断可能部51は、実施例では縦方向に延びる、断続的な切り込みを施して形成してい

る。分断可能部 5 1 は、1 個の長方形面（例えば 5 F）又は複数個の長方形面（例えば 5 F、5 G）の一方の対角線方向に設けても良い。この場合、板状体 5 は、実施例の分断可能部 5 1 と同位置に、縦方向に延びる折り線を有することになる。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

掴み片 5 0 0 は、実施例では横方向の長さが約 1 6 mm、縦方向の長さが約 5 0 mm である。長方形面 5 A～5 L は、実施例ではそれぞれ、横方向の長さが約 1 7 mm、縦方向の長さが約 1 1 0 mm である。側面蓋片 5 0 1～5 1 6 は、実施例ではそれぞれ等脚台形であり、高さが約 1 6 mm、上底の長さが約 3 1 mm、下底の長さが約 4 4 mm、斜辺の長さが約 1 7 mm、内角が 6 7. 5 °と 1 1 2. 5 °である。側面蓋片 5 0 1～5 1 6 は、端部の輪郭が丸みを帯びた曲線で形成しても良い。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

図 4、図 5 に示すように、棒状飯用包装箱 1 の形成は、折り線 6 A に沿って掴み片 5 0 0 を外側に折り曲げる。棒状飯 3 は、二枚の内装シート 8 1、8 2 の上で板状体 5 の縦方向に沿って載置している。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

これにより側面蓋片 5 0 1～5 1 6 は、下底が箱体の両側面の中央で交差し、一方の斜辺部が長方形面 5 A～5 H の内面に接して、箱体の胴部の両端部を支持し、箱体の両側面を形成している。